

金峰山・山行報告

山域：奥秩父、金峰山

日時：2018, 12, 27 (晴れ、強風) ～28 (晴れ&曇り)

メンバー：室(昌) (CL)、石橋 (食料)、土屋(SL)、齋藤(健) (記録)

コースと時間：

27日：登山口(瑞牆山荘)発 13 時 10 分～富士見小屋着 14 時 30 分 (幕営)

28日：幕場 6 時 30 分発～大日小屋 7 時 30 分(アイゼン装着)～金峰山山頂着 10 時 50 分～
山頂発 11 時 5 分～幕場着 14 時 10 分～幕場発 15 時 30 分～登山口着 16 時 10 分

内容

まだ仕事納めとはならない 27 日、休日の取れたリーダーの誘いでメンバーがそろい、金峰山 1 泊山行となった。

冬型の気圧配置、寒波、強風の手ごわい予報の中、無理はしないとの打ち合わせの上決行した。



(出発の駐車場にて 13 時 4 分)

とは言え、富士見小屋でのテント泊ということで気楽な山行の積りでいた。もちろん厳しい寒さの奥秩父であるので、寒さ対策は万全を期したのだが・・・。



(瑞牆山を背景に 13 時 53 分)

予報通り、頭上ではうなりをあげて強風が荒れ狂うが、樹林の中は静かで冬枯れの中、落ち葉を踏みしめゆっくりと進む。

見慣れた小屋に 14 時半到着した。1 組の登山者が休息中だったが、ほかには誰もいないし、小屋も締まっていた。小屋番は不在だがテント泊の場合は扉の所に 1 人千円を入れるとの掲示に従い入金し、テント設営した。テントは我々のみの貸し切りで、近くの水場から水を確保したら、お湯を沸かし、それぞれ持参の飲み物で懇談し、盛り上がった。

とにかく、我々しかいない世界で誰にもはばかりことなく好きなことを言い合い、自然に夕餉の支度、夕食、そしてまた懇談と 8 時過ぎまでにぎやかな時間を過ごした。

外には素晴らしい星空が、木々の間から覗かれ、非日常の世界が広がっていた。

強風の音が聞こえるが少しテントを揺らす程度しか影響がなかった。

28 日朝 4 時起床、朝食、ヘッドランプを付け 6 時半出発。

直後、石橋さんの膝に違和感があり、テントでの待機となり、3 人での出発となった。

雪はないのだが地面は固く凍っていた。予想していたような強風は無かったが気温は低く、しばらく歩くと所々氷結した所があり、そこではストックも利かず、用心して進んだ。

1時間ほど登ったところに大日小屋があり、道のほとんどが凍り付いていたのでアイゼンを装着した。アイゼンの効きは良く、安心して歩を進めることができた。

しかし、寒さが半端なく、特に指先が冷たく、そして更に痛くてどうしようもないまでになってきて、途中歩みを止めて温める場面が何度となく訪れた。

休息時に飲むペットボトルの中身は次第にシャーベット状になり、ついには凍り付いてしまっていた。

砂払いを過ぎるころから稜線の風が時折激しくなり、さらに体感温度は下がっていった。

大きな岩の登りも多くなり、山頂が近くに見えても、なかなかたどり着かなかった。



(五丈岩にて 10時41分)

金峰山はみな初めてではなかったがそれぞれが予想した時間より多くの時間をかけ、五丈岩到着、そして、山頂までたどり着いた。

風の来ない所でしばし休息するが寒さは続いた。スマートフォンの電源が落ちたり、飲み物が少なくなったり、食べ物がなかなか喉を通って行かなかったり。

寒さによる影響がいろいろ現れた。

もう一度、寒さ対策をいろいろ考えた方が良くないと考えさせられた山行となった。



(金峰山山頂 10時51分)

15分ほどの休息の後、下山を開始した。

途中、砂払いを通過時に当初予想時間より遅れていたのので、待機の石橋さんにLINEで現在地を連絡した。便利になった、この連絡でお互い心配しないで済んだ。

一時、稜線で向かい風にさらされた。長い時間でなかったのでも、何事も無かったが、長い時間このままだったら凍傷は避けられないなと感じた。風の有無で体感温度が激しく変わり、それが顔に吹き付けられたら、さらに、雪が降っていたら・・・と自問した。

14時10分テント場到着、お湯を沸かし、暖かい飲み物で一段落。

テント撤収して、ゆっくりと駐車場まで下った。

駐車場の気温はマイナス8度、山の温度は相当下がっていたようだ。侮れない、冬の奥秩父、金峰山！また今度お会いしましょう！